

葛川 イワナの生息環境の保全へ ～魚類の移動経路の維持活動～

調査地点

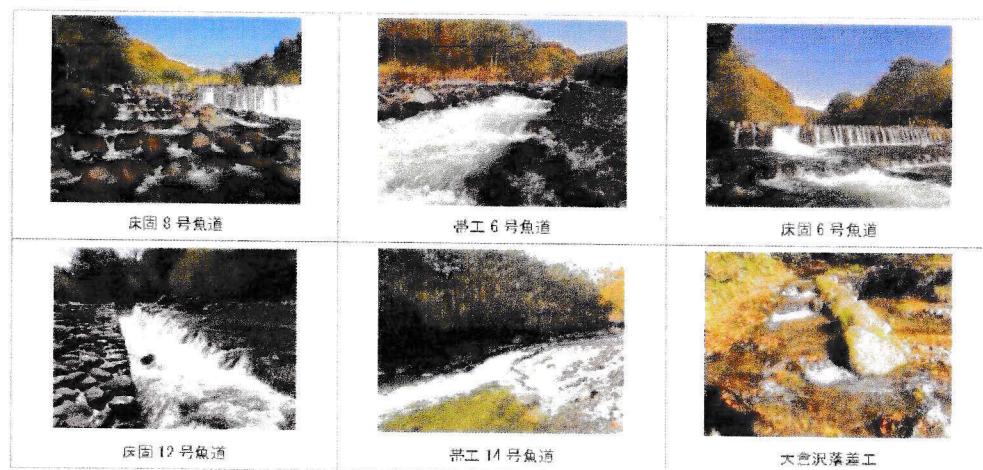


図 1 調査対象魚道部の状況

(点検項目(案))

魚道の上下流端及び魚道内の3地点において、下記の点検を行う。

- ①魚道の破損の有無
- ②堆積土砂の有無
- ③流木の有無
- ④ゴミの有無
- ⑤洗掘の有無（上下流地点）
- ⑥他

産卵床の経年確認状況 (平成22年度～平成28年度)

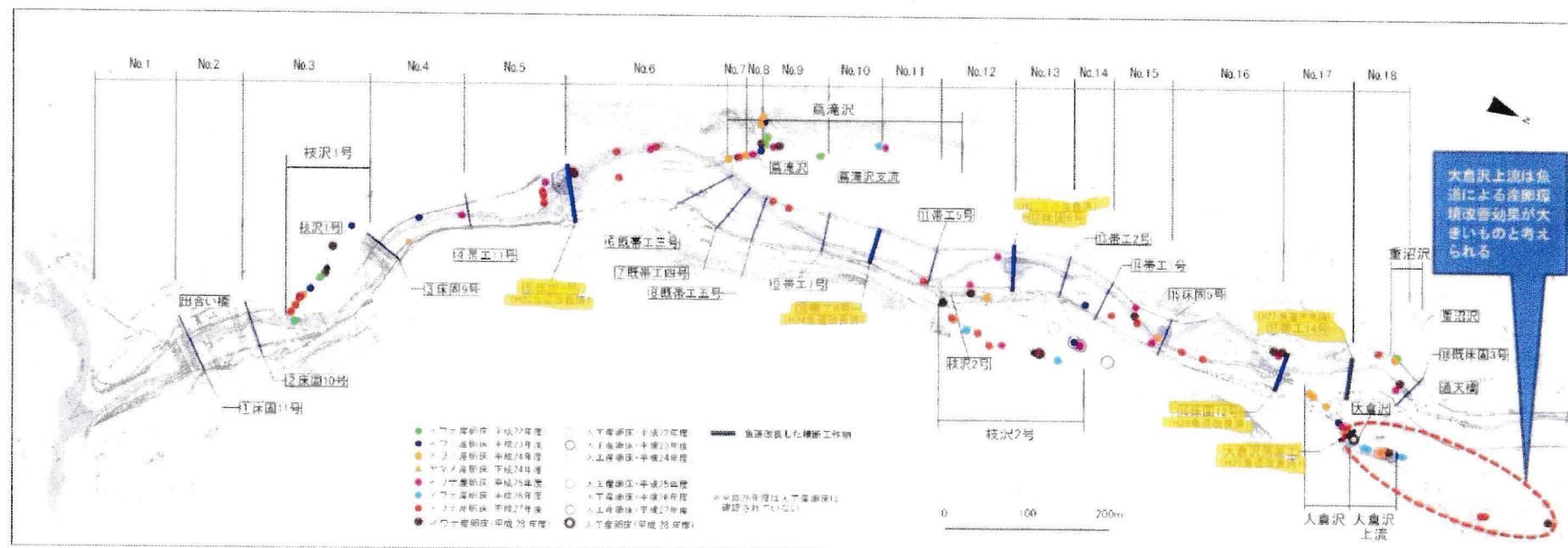


図 14 産卵床の経年確認状況

鳴川魚類の移動経路の維持活動(魚道点検調査) 点検結果と対応について

主催:あおもりの川を愛する会

点検実施日:令和7年9月9日(火)

点検結果打合日:令和7年11月20日(木)

出席者:上北県土整備事務所、成田副課長、あおもりの川を愛する会、伊藤幹事、羽賀幹事

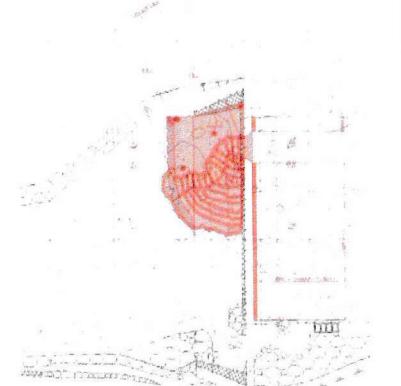
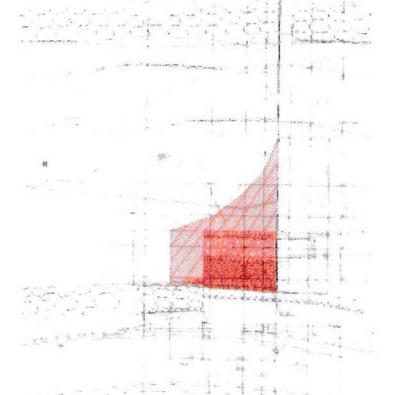
1. 鳴川魚道点検調査の方法について

今年は、昨年の反省を踏まえて、鳴川魚道点検調査を3班に分けて同時に実行した。そのため、時間内にスムーズな点検を行うことができた。

また、各班毎に、点検責任者の方から点検結果と写真、特記事項をご提出いただきましたので、詳細は別紙魚道点検用紙(1/3~3/3)を参照下さい。

※「砂防関係施設点検要領 (案)」 II 砂防関係施設の点検 II-1 点検計画、種類、実施体制、実施時期及び点検の方法 1.点検計点検より抜粋を参考にする。

点検計画の策定に先立ち、区域名、施設名、施設種別、所在地、施設諸元などをまとめた施設台帳、被災履歴等、既存の施設に関する基本的な情報を収集整理する。このほか、設計の根拠とされた基準類についても、可能な範囲で整理する。(https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/sabo/sabo_tenkenyouryou_202203.pdf)

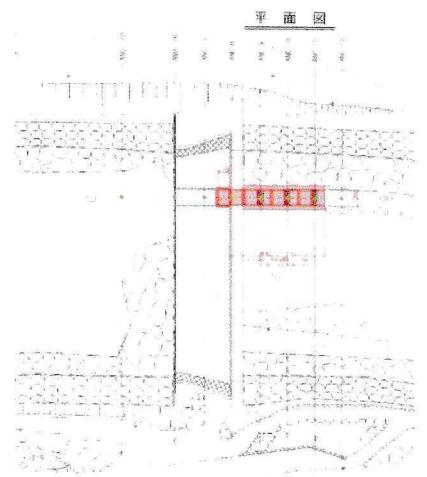
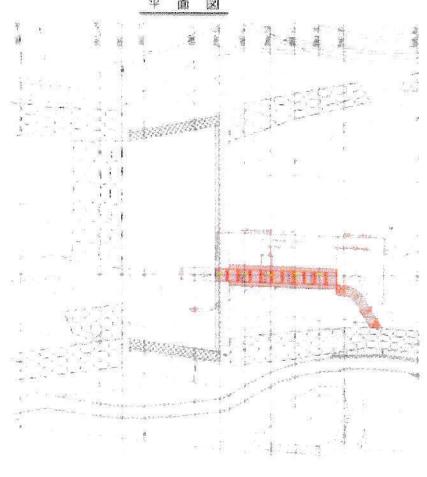
施設名	点検調査における特記事項		対応策(案)	打合せ結果(今後の対応)	備 考
床固8号魚道	下流	・流木撤去実施したが、大きな流木が1本残っている。	・魚道に機能上の問題は特にない。 ・大きな流木1本除去の検討。	・大きな流木は、撤去してください。	
	本体	・床固本体(中央部)の自然石の欠落が3箇所あり。	・構造上に支障はないと思われるが、経過観察の継続が必要と思われる。	・経過観察とする。 ✓	
	上流	・上流部に中州への堆積あり。	・経過観察。	・経過観察とする。	
帶工6号魚道	下流	・床固本体、魚道を含めて概ね良好。		—	
	本体			—	
	上流			—	

鳴川魚類の移動経路の維持活動(魚道点検調査) -点検結果と対応について-

点検実施日:令和7年9月9日(火)

点検結果打合日:令和7年11月20日(木)

出席者:上北国土整備事務所、成田副課長、あおもりの川を愛する会、伊藤幹事、羽賀幹事

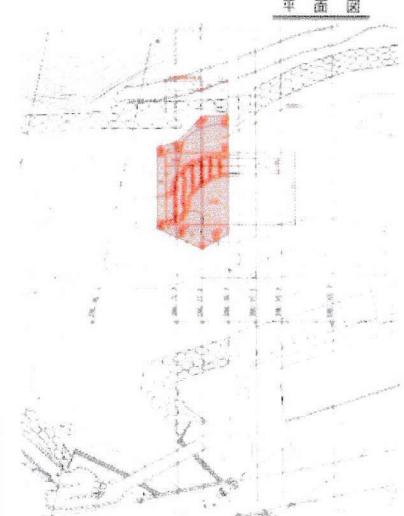
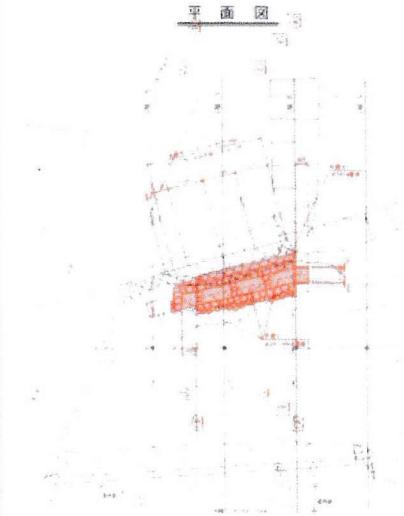
施設名	点検調査における特記事項		対応策(案)	打合せ結果(今後の対応)	備 考
床固6号魚道	下流	<ul style="list-style-type: none"> ・床固本体、魚道、下流部の破損・洗堀なし。 ・土砂の堆積、流木、ごみ無し。 ・魚道機能良好と思われる。 		—	
	本体			—	
	上流			—	
床固12号魚道	下流	<ul style="list-style-type: none"> ・床固本体下流部は水深が深く、洗堀の可能性があるのではないか。 ・下流左岸の低水路閉塞解消確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・測量を実施して洗堀の有無を確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・渇水期にスタッフによる簡易測定を定期的を行い、洗堀の進行状況を確認する。 	
	本体	<ul style="list-style-type: none"> ・魚道部の左岸背面の空洞補修済み確認。 ・床固の上下流は土砂堆積、流木、ごみなどなし。 ・魚道機能も問題がないと思われる。 		—	
	上流			—	

鳴川魚類の移動経路の維持活動(魚道点検調査) -点検結果と対応について-

点検実施日:令和7年9月9日(火)

点検結果打合日:令和7年11月20日(木)

出席者:上北国土整備事務所、成田副課長、あおもりの川を愛する会、伊藤幹事、羽賀幹事

施設名	点検調査における特記事項		対応策(案)	打合せ結果(今後の対応)	備 考
帯工14号魚道	下流	・魚道機能は問題なく機能している。		—	
	本体	・帯工本体の自然石張工のはく離が部分的に見られ、昨年より範囲が大きくくなっている。	・定期観察や今後の補修工事が必要と思われる。	・経過観察とする。	
	上流			—	
大倉沢落差工	下流			—	
	本体	・魚道部に土砂が堆積して流水がなく魚道の閉塞が見られる。	・魚道の機能確保のための定期観察や土砂、流木の撤去管理が必要であると思われる。	・魚道部土砂の堆積を撤去する。今後は、定期的に土砂堆積の有無を点検する。 →9/30に撤去済み(別紙写真参照)	
	上流	・魚道上流部の土砂堆積。		—	

葛川魚道点検用紙(1／3)

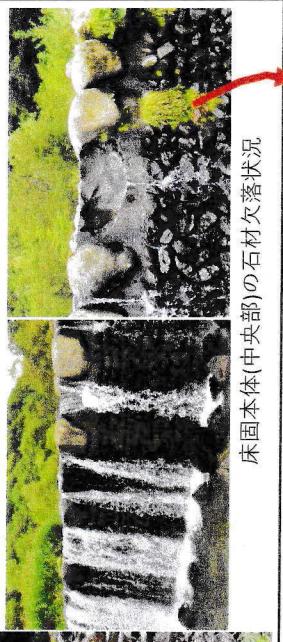
点検日時：2025年 9月 9日 (火)

葛川 本川 (下流 ⇒ 上流)

床固8号魚道

	下流	本体	上流	下流	本体	上流
魚道の破損 (有×又は無○)	○	○	○	○	○	○
堆積土砂 (有×又は無○)	○	(堆積以外) 床固本体(中央部)の石材欠落3か所	○	○	○	○
流木 (有×又は無○)	×	流木撤去(大きな流木1本残)	○	○	○	○
ゴミ (有×又は無○)	○	○	○	○	○	○
洗掘 (有×又は無○)	○	—	○	○	—	○
遡上・降下可否 (可○又は否×)						

写真等



- ・(魚道を含めて帶工6号全体) 概ね健全と思われる。

特記事項

- ・魚道の機能上は特に支障はないと思われるが、大きな流木の撤去検討を。
- ・構造上支障はないと思われるが、観察継続を。

点検者(◎記入者) :

田村義行、兼平喜代二、平田昌樹、石岡忠則、(上北)成田悠輔。

送信先 : 伊藤文二
bunji_ito6756@yahoo.co.jp

鳴川魚道点検用紙(2/3)

点検日時：2025年9月9日

		鳴川本川（下流 ⇒ 上流）			床固6号魚道			床固12号魚道		
		下流	本体	上流	下流	本体	上流	下流	本体	上流
魚道の破損 (有×又は無○)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
堆積土砂 (有×又は無○)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木 (有×又は無○)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ゴミ (有×又は無○)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
洗掘 (有×又は無○)	○	—	○	△	—	○	—	○	—	○
越上・降下可否 (可○又は否×	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
写真等										
特記事項										

点検者（○記入者）：田中克人

送信先：伊藤文二
bunji_itto6756@yahoo.co.jp

- 床固本体下流部は水深が深く、はつきりとは分からないが、洗掘している恐れがある。測量などを実施して確認すべきと思う。

- 床固の上下流部とも土砂の堆積や流木、ゴミなどは見られなかった。
- 魚道として機能しており問題ないと思われる。

鳴川魚道点検用紙(2／3)

点検日時：2025年 9月 9日

鳴川 本川 (下流 ⇒ 上流)											
	床固6号魚道			床固12号魚道							
	下流	本体	上流	下流	本体	上流					
魚道の破損 (有X又は無○)	○	○	○	○	○	○					
堆積土砂 (有X又は無○)	○	○	○	○	○	○					
流木 (有X又は無○)	○	○	○	○	○	○					
ゴミ (有X又は無○)	○	○	○	○	○	○					
洗掘 (有X又は無○)	○	—	○	○	—	○					
遡上・降下可否 (可○又は否X)	○	○	○	○	○	○					
写真等		魚道部（下流側から撮影）			下流左岸部			魚道部（下流側から撮影）			
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 水量が多く、昨年度指摘されている下流右岸の洗掘の可能性について確認できなかった。 魚道は機能していると思われる。 			<ul style="list-style-type: none"> 下流左岸部の低水路の閉塞は解消されていた。 魚道部の左側背面の空洞についても補修されていた。 水量が多いため、下流側の護床工について確認できなかった。 魚道は機能していると思われる。 							
点検者（○記入者）：	古川 幸博			送信先：伊藤文二 bunji_ito6756@yahoo.co.jp							

薦川魚道点検用紙 (3 / 3)

点検日時：2025年 9月 9日

薦川 本川 (下流 ⇒ 上流)

	帝工14号魚道			大倉沢落差工		
	下流	本体	上流	下流	本体	上流
魚道の破損 (有×又は無○)	○	○	○	○	○	○
堆積土砂 (有×又は無○)	○	○	○	×	×	×
流木 (有×又は無○)	○	○	○	△ (枝等少量)	△ (枝等少量)	△ (枝等少量)
ゴミ (有×又は無○)	○	○	○	○	○	○
洗掘 (有×又は無○)	○ (昨年より河床低下?)	—	○	○	—	○
遡上・降下可否 (可○又は否×)	○	○	○	×	×	×
写真等						
特記事項	<p>昨年同様、魚道部においては問題なく機能していると思われる。 なお、帝工下流部スロープ上に設置している自然石張工が一部剥離しており、昨年写真に比べて河床低下及び剥離範囲が拡大しているように見えるので、定期観察と今後補修工事が必要と思われる。</p>			<p>昨年に土砂撤去や雑木伐採が行われたことにより、河川環境は良好と思われるが、魚道部においては、上流部が平坦なためか導水路上に土砂が堆積して流水が無く、魚道が閉塞して遡上できない状況となっている。 今後は、定期的（年1回程度）に、観察と土砂及び流木撤去を行う必要があると思われる。</p>		
点検者（○記入者）：	3班 太田博秋			送信先：伊藤文二 bunji_ito6756@yahoo.co.jp		

